

平成22年第1回教育委員会定例会会議録

- 1 開会宣言 平成22年1月28日(木) 午後1時30分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 201会議室
- 3 出席者 長沼委員長、坂爪委員長職務代理委員、渡辺委員、須佐委員、松永教育長
- 4 説明のための出席者
古川教育部長、池浦教育総務課長、久住子育て支援課長、小林学校教育課長、金子生涯学習課長、坂井学校教育課主幹、尾崎教育総務課主幹、駒形教育総務課長補佐、阿部教育総務課庶務係長
- 5 傍聴人 2人
- 6 議 題
 - (1) 前回会議録の承認について
平成21年第12回教育委員会定例会会議録
 - (2) 報 告
報第1号 平成21年度第2回三条市社会教育委員会議会会議録について
 - (3) 議 事
議第1号 三条市の幼児教育の在り方について
議第2号 三条市公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
議第3号 三条市公民館条例施行規則の一部改正について
議第4号 平成22年度全国学力・学習状況調査の実施について
議第5号 子どもがつくる弁当の日の実施について
 - (4) その他
ア 小中一貫教育関係の概要報告について
イ 次回教育委員会定例会の日程について
- 7 審議の経過及び結果
 - (1) 前回会議録の承認について
長沼委員長から平成21年第12回教育委員会定例会会議録について諮り、承認と決定
 - (2) 報 告
・報第1号 平成21年度第2回三条市社会教育委員会議会会議録について
金子生涯学習課長から説明

質疑に入る。

(松永教育長)

「さんじょうまなび手帳」を9月から実施しているということだが、今はどのくらい出ているのか。

(金子生涯学習課長)

2,000冊ほど作成した。現在、何冊出ているのかは把握していない。各公民館に配布させてもらって、そこから希望者に出すようにしている。

(長沼委員長)

どんなものか。

(金子生涯学習課長)

実物を持ってこないで申しわけない。受講した後、手帳にスタンプを押してもらおうという形だ。後日配布させてもらう。

全員異議なく承認と決定

(3) 議 事

・議第1号 三条市の幼児教育の在り方について

久住子育て支援課長から説明

質疑に入る。

(坂爪委員)

連絡が取れるようになって、すごくいいことだが、これが始まる以前はどんな感じだったのか。

(久住子育て支援課長)

現在、南幼稚園と南小学校、本成寺保育園と南小学校などで、例えば運動会や児童会活動に幼稚園、保育所を呼んで、幼児、児童の交流をその学校にお任せをする形で進めてきた。

また、幼稚園や保育所から小学校に入学する際には、小学校の教師が保育園の園児の様子について先生と話を聞いたり見に行ったりという先生同士の交流というものもあったが、定期的に幼児施設を訪問するというきちんとした形のものはない。

(松永教育長)

一番核になったのは南幼稚園と南小学校の連携で、そこを中心とした幼保小連携推進会議というものができて、そこで研修会を計画する中で講演会を開いたり、あるいは小学校の児童と幼児とのいろいろな活動の交流などを公開して、各保育施設、幼稚園の先生方から来てもらって、それを見ながら分科会を開いたり、南小学校と南幼稚園を核にしてこれまでやってきた。

個々のものは課長が言ったように、学校が保育所や幼稚園と連携を取って入学に当たってのことは行ったり、あるいは学校の行事や何かに混じって保育園の人も交流をするということが各自の創意工夫として行われてきたということが今までだ。

(坂爪委員)

保育所、保育園では、それぞれ園長あるいは所長によって、すごく特色を出しているところが多い。そういうものの良し悪しは別として、把握ができていたかどうか。今回こういうものがあり、今度は公立ばかりではなくいろいろなところから情報が入るのかという気がして、すごくいいことだと思った。

(久住子育て支援課長)

2ページにも書かせていただいたが、保育所の保育指針というものが21年4月に改正された。今までは、必ず従いなさいというよりは、ガイドライン的な保育指針の位置付けだったところを、厚生労働大臣の命で、この保育指針に従って保育をしなさいとなった。そして、保育指針の中にも幼児教育という形で、幼稚園、保育所とも書かせていただいた「健康・人間関係・環境・言葉・表現」に関わる目標と内容を明確化され、こういうものに従って幼児教育を保育所でも幼稚園でも進めなさいという形に21年度から統一されたことが背景にある。

幼児期、保育所で終わるわけではないので、その連続した学びを見据えた中での幼児教育を三条市としてどうやっていくかの指針ともなるべきプログラムを作って進めていったらどうかということで提案をさせていただいた。

(長沼委員長)

この「コミュニケーション能力の不足」や「基本的な生活習慣」は本当に大切なことだが、家庭の占めるものが多い。現場の幼稚園や保育園では、年々この部分がとてつもなく下がっているとか、共通してこれがだめになっているとか、これはいいとかという、はっきりしたものがあるのだろうか。

また、最低ここまではしましょうという、具体的なものはあるのだろうか。

(久住子育て支援課長)

もちろん家庭教育、地域との関わりというものも重要で、このプログラムの中にはきちんと入ってくると思う。また、委員長が言われた今の現状と役割の再確認という意味でもきちんと記述をしていきたいと考えている。

(長沼委員長)

私は、今のお母さんたちの考えるコミュニケーション能力というものと、私どもの思っている子育てやコミュニケーション能力は、どうも質が違うような気がする。前にも申し上げたが、例えば幼稚園だったら15分黙って座っていられるとか、きちんとお箸が持てるとか、それから「ありがとう」と「おはよう」が言えるとか、そういう具体的なコミュニケーションは取れていますよと言われる。ただ、ネットとか何か、それからしつけは自由にしていきますと言う。要するにしつけをしていない。

私が年取っているので、どうも私の思うしつけというのと違うなということが見えてくる。その辺、先生方もしつけとはこういうものだと思っていらっしゃるところがあるのかといつも不思議に思っている。

具体的なマニュアルといたらいいのだろうか、そういうものがかえって今のお母さんには分かりやすいのかなと思うときがある。

(松永教育長)

国会ではいわゆる政権交代で、鳩山総理大臣は幼保の一元化の法的整備を平成 23 年度にしていきたいと答弁している。そういうのを見ると、今おっしゃったように文部科学省の指導要領と厚生労働省の指針とのいろいろなつながりもこれから出てくるだろうと思う。それらを見据えながら、計画しているこれからのカリキュラムなども見ていく必要があるのではないかと考えている。これはソフトの面だけでなくハードの面も絡んでくると思うので、常に様子を見定めながら進めていく必要がある。

(渡辺委員)

メンバーの中に小学校の代表も入っていると書いてあるが、小中の教育の推進の方向が一貫教育ということで進んでいるわけなので、中学校の代表も会に参加することは意義が大きいのではないかと思うが、いかがだろうか。

(久住子育て支援課長)

そこは小学校と書かせていただいたが、一貫教育が進められており、また小中一貫教育推進室と連携を図るということで、推進会議のメンバーに中学校からも出ていただくようにしたいと思う。

(長沼委員長)

一般の父兄では、幼稚園と保育園の違いは昼寝があるとないくらいの認識しかない。もっと重大な違いがあったのだろうか。

(久住子育て支援課長)

前は教育と養護という違いがあったが、保育園に3から5歳までの幼児教育というものが入ってきている。また、幼稚園でも未満児から入園をしている。教育長が言われた幼保の一元化ということで、認定こども園というものも国は進めているところだが、ほとんど変わらない。時間の長さという部分でも、幼稚園では預かり保育ということで5時、6時までやっているの、変わらないということになってきた。

(須佐委員)

構成メンバーの中に保護者が入るわけだが、保育園の保護者でも普段なかなか時間がない中で保育園に行くという状況もある。本当に何とかうまく参加できるような方向でやっていただければと思う。

(久住子育て支援課長)

今、こどもみらい委員会という審議機関が子育て支援課にあるが、そちらのメンバーの中にも学校の保護者の方も、保育園の保護者の方も入っていただいている。会議等についてはそちらの方たちが出席できるような時間帯にするなどして、メンバーの中には幼児施設に通っている保護者の方も入れたいと考えている。

(長沼委員長)

保育園や幼稚園の場合は、おばあさんやおじいさんが見ておられる。幼稚園などの送り迎えは全部お年寄りがされておられる方はかなり多い。そういう方が保護者ということでおいでになっても、ひとつの見方があるかもしれない。

全員異議なく承認と決定

・議第 2 号 三条市公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について

・議第 3 号 三条市公民館条例施行規則の一部改正について

金子生涯学習課長から一括説明

質疑に入るが質疑なく、全員異議なく承認と決定

・議第 4 号 平成 22 年度全国学力・学習状況調査の実施について

小林学校教育課長から説明

質疑に入る。

(渡辺委員)

抽出対象候補校は、小学校が 2 校、中学校が 5 校ということだが、小学校は数が多いのに 2 校、中学校は数が少ないのに 5 校とパーセントが違うのはなぜか。

(小林学校教育課長)

これは三条市教育委員会や県教育委員会ではなく、文部科学省から指定で全国のほぼ 30% という中で抽出された。三条市は小学校が 24 校あるのに 10% に至らない 2 校が抽出され、中学校は 9 校あるがそのうちの半分以上にあたる 5 校が抽出校だということに決まった。私も県に問い合わせたが、県が決めたのではなく、もう文部科学省からこの学校ということ由来の一覧により各市町村に流したということだ。

私も驚いたし、もうちょっと市単位で 30 パーセントにしてもらえばありがたかったという気がしているが、文部科学省からこの学校でという指定で決まってきたという経緯がある。

(松永教育長)

文科省が選んだのは中学校の方が実は高い。小と中を合わせて 30% だが、中学校は 40 数% だ。新潟県では、小学校は 23.1%、中学校は 49.2% ということになっている。全国を見ても国立私立の合計で小学校は 25.4%、中学校は 43.7% の抽出で、平均して 30% になるが、初めから小学校の方が少ない。

全国のうち新潟県がこうなって、そのうち三条市が小学校 2 校、中学校 5 校という形で出てきている。これはあくまでも無作為の抽出だろうと思う。あるいは人数も考えたのか分からないが、私どもは対象校がこうなったという通知を受けた。

(長沼委員長)

実施は同じ日か。

(松永教育長)

抽出された学校はすべて 4 月 20 日に全国一斉にやることになる。三条市の場合も決定してもらえれば、この 2 校と 5 校は 4 月 20 日をお願いするが、それ以外の学校についてはその日にやってもいいし、あるいは別の日でもいい。いろいろな調整ができるように中学校区の単位でそれぞれ行うことになる。ただし、採点等を国と同じようにすれば金にかかるが、それだけの予算は今のところないので、先生方にお手数だが採点はそちらでできませんかというお願いをしていこうと考えている。

全員異議なく承認と決定

・議第5号 子どもがつくる弁当の日の実施について

小林学校教育課長から説明

質疑に入る。

(松永教育長)

家庭科の時間を使うということなのだろう。

(小林学校教育課長)

小学校5年生の家庭科のカリキュラムは、単元の配列表等によると、11月、12月と2学期の後半になって初めて「ご飯を炊いてみよう」、「作っておいしく食べる」という単元がある。それらを1学期に前倒しし、その中でご飯をといで炊くことや、おかずを作るいくつかのことを学んでいく中で、できることから1学期にまずやりたいと考えている。

(坂爪委員)

今までも、遠足や運動会などいろいろな行事があると弁当を持っていくが、うちのことを見ていると、作ったものをそのまま預けられて持っていき、そのまま持ってきて、ご馳走様とも言わないでポンと置いてある。本当にそこら辺りのしつけもすごく大事だなという感じがする。一緒に作るのはいいが、帰ってきたら開いて流しておいておくらいい徹底するような、しつけも入れてはどうかという気がする。

(小林学校教育課長)

そういうものも含めて中に入れていきたいと思う。

(長沼委員長)

講演会のときに竹下先生の本を1冊買って、うちに来る中学生に見せたら、ぱっと読んでしまう。ああ、こういうこと、これならできそうと言っていた。やはり文字や写真はすごいなと思った。小学校でも本を見せたらいろいろと説明しなくても、こういうことねと、かえって早いと思う。

(松永教育長)

今の書物という話は、教育委員会が用意して学校に配るということではなく、各学校が配当予算等、図書予算を持っているので、そういう中で各学校で用意してもらい、指導で使ってもらうことで間に合うのかなと思う。そういう本が市販されているので、学校図書として購入して指導にも使うという、そんな話を持っていけば、今の委員長の話も生きるのではないかと思う。

(小林学校教育課長)

委員長さんが買っていただいたものは、講演会のときに講師から送られてきて、それを会場で販売させていただいたものだが、先生方からも大分買っていただいている。教育長が言われたように、学校図書としても考えてほしいということで話したいと思う。

(長沼委員長)

子どもが読んでみればかえって分かりやすいと思う。

全員異議なく承認と決定

(3) その他

ア 小中一貫教育関係の概要報告について

小林学校教育課長から説明

質疑に入るが質疑なく、質疑終結

イ 次回教育委員会定例会の日程について

池浦教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

日 時 平成22年2月26日(木) 午後1時30分

会 場 三条市役所栄庁舎 201会議室

8 閉会宣言 平成22年1月28日 午後2時55分

三条市教育委員会会議規則第38条及び第39条の規定により、会議の顛末を記載してここに署名する。

平成22年2月26日

三条市教育委員会

委員長 長沼 礼子